

令和8年度島根県子育て支援員研修に係る委託業務仕様書

1 委託業務名

令和8年度島根県子育て支援員研修に係る委託業務

2 委託事業の目的

多様な保育や子育て支援分野の各事業等の従事者として必要な知識、原理、技術及び倫理などを修得するための研修を実施し、子育て支援員の養成を図ることを目的とする。

3 委託期間

契約日から令和9年3月23日（火）まで

4 業務内容

こども家庭庁が定める子育て支援員研修事業実施要綱（令和6年3月30日付けこ成環第1111号、こ支家第189号「子育て支援員研修事業の実施について」こども家庭庁成育局長、こども家庭庁支援局長通知）に基づき、次のとおり研修を実施すること。

なお、「地域保育コース（乳児等通園支援事業）」については、こども家庭庁から発出される通知の内容に従って研修を実施すること。当該通知が発出されるまでは「令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業「乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の従事者への研修に関する調査研究」（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）」を参考として、研修内容の構成に加え、研修カリキュラムの設定及び講師の選定を行うこと。また、当該通知が発出後、通知の内容に基づき、適宜見直すこと。

<子育て支援員研修の企画・運営>

（1）子育て支援員研修の実施

ア 研修の内容

研修内容は、こども家庭庁が定める「子育て支援員研修事業実施要綱」5（3）研修内容に定められている以下のものとする。

（ア）基本研修

子育て支援員として、子育て支援分野の各事業等に共通して最低限必要とされる子育て支援に関する基礎的な知識、原理、技術及び倫理などを修得するものとし、子育て支援員としての役割や子どもへの関わり方等を理解するとともに、子育て支援員としての自覚を持たせることを目的とする。

（イ）専門研修

基本研修を修了した者が、子育て支援員として、子育て支援分野の各事業等に従事するために必要な子どもの年齢や発達、特性等に応じた分野毎の専門的な知識・原理・技術・倫理などの修得を行うことを目的とする。

a 地域保育コース

（a）共通科目

（b）選択科目

- ・ 地域型保育
- ・ 一時預かり事業
- ・ ファミリー・サポート・センター
- ・ 乳児等通園支援事業

b 地域子育て支援コース

- ・ 地域子育て支援拠点事業
- c 放課後児童コース
- d 社会的養護コース

ウ 研修コースの受講人数

研修の開催日、時間帯等については、地域の実情に応じて、受講者が受講しやすいよう適宜配慮して設定すること。

研修コース	受講人数
基本研修	150名
専門研修（地域保育コース・共通科目）	140名
専門研修（地域保育コース「地域型保育」）	100名
専門研修（地域保育コース「一時預かり事業」）	70名
専門研修（地域保育コース「ファミリー・サポート・センター」）	20名
専門研修（地域保育コース「乳児等通園支援事業」）	50名
専門研修（地域子育て支援コース「地域子育て支援拠点事業」）	30名
専門研修（放課後児童コース）	80名
専門研修（社会的養護コース）	25名

エ 実施方法

- ・ 原則オンラインにより実施するものとする。
（テレビ会議システム、eラーニングシステム等）
ただし、地域保育コース共通科目の心肺蘇生法等についてはテレビ会議システムによるリアルタイム配信又は集合型による現地研修により実施するものとする。
- (2) 子育て支援員研修の講師の選定について
 - ・ 講師については、略歴、資格、実務経験、学歴等に照らして選定し、各科目の研修を適切に実施するために必要な体制を確保すること。
 - ・ 講師の選定にあたっては、研修内容、開催日時、条件等について、事前に相手方と調整の上依頼すること。
- (3) 子育て支援員研修の開催通知等の作成・配布
 - ・ 当該研修に係る開催要綱（研修日時、内容等）、受講申込書を作成すること。
なお、作成にあたっては、事前に県と協議し、県の指示に従うこと。
 - ・ 配布先については、次の施設等を含めること。
○ 県内保育所、認定こども園、放課後児童クラブ等（約620施設）
○ 県（100部程度）に提供すること（市町村等への配布のため）
- (4) 受講申込の受付及び受講者の集約
 - ・ 受講申込書の受付を行うこと。
 - ・ 受講者を取りまとめ、受講者に対して受講決定通知書を作成し、送付すること。
 - ・ 受講申込者名簿を県に提出すること。名簿は、個人情報として十分な注意を払った上で管理すること。
- (5) 子育て支援員研修で使用する資料（テキスト等）・機器等の準備
 - ・ 研修資料は、『子育て支援員研修に係る「指導略案」及び「標準的な履修・指導内容の教材例』を参考に、講師及び県と十分に協議し、作成すること。
 - ・ 講師等が研修で使用する機器等を準備、研修会場まで搬送すること。

(6) 子育て支援員研修の研修運営

- ・受講者の本人確認を行うこと
- ・研修レポート等の作成、配付、とりまとめ(※1)
- ・受講者アンケートの作成、配付、とりまとめ、集計(※2)

※1 県において修了評価ができるように、レポート又はチェックシートにより、1日単位で受講者に提出させること。

※2 アンケート内容は、県に対し事前に協議すること。

- ・その他運営に必要な業務

(7) 実習のコーディネート等

- ・2日以上の実習が必要な「地域型保育」「一時預かり事業」については、実習と同程度の内容を担保する講義・演習等を1日実施するものとする。

また、「地域保育コース(乳児等通園支援事業)」についても、今後2日以上の実習が定められた場合は、同様の方法により実施すること。

(8) 研修修了者等の管理

- ・修了評価に係るレポートとともに、研修修了予定者名簿(出欠状況がわかる名簿とすること。)を作成し、県へ提出すること。地域保育コースについては、早期に修了証書を交付できるよう、全受講者のレポート提出を待たず、早めに提出されたものから集約し、数回に分けて県へ提出すること。名簿は、個人情報として十分な注意を払った上で管理すること。

- ・研修修了者に対して、修了証書を送付すること。

(9) 完了報告書の作成

業務の完了後、速やかに実施状況及び受講者へのアンケート結果について、報告書を作成し、県に提出するとともに、的確な業務管理に努めること。

(10) その他

- ・多くの人が受講できるよう、日程設定等には十分な配慮を行うこと。
- ・業務の運営にあたっては、業務上知り得た情報を漏洩してはならない。
- ・受講者等の個人情報を適切に管理すること。
- ・本業務において作成した資料等に関する著作権は、全て県にあるものとする。
- ・業務の過程において、県と十分な協議、連携を行うこと。
- ・災害等により、研修の一部又は全部を中止する必要がある場合には、当該中止後の業務内容により再度見積を行い、契約額の減額を行うこととする。ただし、中止となる研修について、受託者において開催準備等のため既に支出し、又は支出することが確定している経費がある場合には、県と協議のうえ必要と認められる額の範囲内で、当該経費を減額後の契約額に含めることができる。

(別表1) 令和8年度島根県子育て支援員基本研修

(1) 受講者定数 150名

(2) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 子ども・子育てに関する制度や社会状況における子育て支援事業の役割を捉えるための科目				
①子ども・子育て家庭の現状	講義	60分	<子ども・子育て家庭（対人援助を行う対象）に対する理解> ①子どもの育つ社会・環境 ②子育て家庭の変容 ③子どもの貧困及び子どもの非行についての理解	①子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について理解する。 ②家庭の意義と多様な子育て家庭のニーズと子育て支援等の現状と課題について理解する。 ③子育て家庭への支援について理解する。 ④子どもの貧困や非行などの背景の概要について理解する。
②子ども家庭福祉	講義	60分	<子育て支援制度の理解> ①子ども・子育て支援新制度の概要 ②児童福祉施策等の理解 ③児童家庭福祉に係る資源の理解	①児童家庭福祉施策・制度の概要（子ども・子育て支援新制度の概要と子育て支援員が関わる事業の枠組みと位置付け等）について理解する。 ②児童福祉施設等と専門職の役割について理解する。 ③児童家庭福祉に関する地域資源の概要（地域人材の確保を含む）について理解する。
2. 支援の意味や役割を理解するための科目				
③子どもの発達	講義	60分	<子ども・子育て家庭（対人援助を行う対象）に対する理解> ①発達への理解 ②胎児期から青年期までの発達 ③発達への援助 ④子どもの遊び	①子どもの発達を捉える観点について理解する。 ②子どもの発達（「発達・成長の保障」、「情緒の安定」、「生命の保持」の視点）の概要について理解する。 ③生涯発達の概要について理解する。 ④子どもの発達に応じた援助の基礎について理解する。 ⑤「遊び」の意義と「遊び」の質について理解する。
④保育の原理	講義	60分	<子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解> ①子どもという存在の理解 ②情緒の安定・生命の保持 ③健康の保持と安全管理	①発達・成長過程に応じた保育の基礎について理解する。 ②情緒の安定と生命の保持に係る保育の基礎について理解する。 ③子育て支援事業における安全対策や危機管理の必要性について発達との関連を踏まえて理解する。

⑤対人援助の 価値と倫理	講義	60分	<子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解> ①利用者の尊厳の遵守と利用者主体 ②子どもの最善の利益 ③守秘義務・個人情報の保護と苦情解決の仕組み ④保護者・職場内・関係機関・地域の人々との連携・協力 ⑤子育て支援員の役割	①対人援助の価値について理解する。 ②子どもの最善の利益について理解する。 ③対人援助の倫理について理解する。 ④保護者・関係者・関係機関との連携・協力の必要性について理解する。 ⑤子育て支援員の役割について理解する。
3. 特別な支援を必要とする家庭を理解するための科目				
⑥児童虐待と 社会的養護	講義	60分	<子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解> ①児童虐待と影響 ②虐待の発見と通告 ③虐待を受けた子どもに見られる行動 ④子どもの権利を守る関わり ⑤社会的養護の現状	①児童虐待(家庭における配偶者に対するDVを含む)とその影響(虐待を受けた子どもに見られる行動など)について理解する。 ②虐待を受けたと思われる子どもを発見した際の基本的な対応の概要について理解する。 ③子どもの権利擁護の基本的視点について理解する。 ④社会的養護の意義と現状について概要を理解する。 ⑤社会的養護を必要とする子どもや家庭の状況について理解する。
⑦子どもの障 がい	講義	60分	<子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解> ①障がいの特性についての理解 ②障がいの特性に応じた関わり方・専門機関との連携 ③障がい児支援等の理解	①障がい特性の概要について理解する。 ②障がい児支援制度の概要について理解する。 ③障がい特性に応じた関わり方や専門機関との連携の概要について理解する。 ④障がい児支援等の現状について理解する。
4. 総合演習				
⑧総合演習	演習	60分	①子ども・子育て家庭の現状の考察・検討 ②子ども・子育て家庭への支援と役割の考察・検討 ③特別な支援を必要とする家庭の考察・検討 ④子育て支援員に求められる資質の考察・検討 ⑤専門研修の選択など今後の研修に向けての考察・検討	①履修した内容についての振り返りを図るためのグループ討議。 ②子育て支援員に求められる資質についての理解の確認。 ③履修した内容の総括と今後の課題認識の確認。 ※内容欄のテーマをもとに、研修効果の定着を図るために上記①～③のいずれかの振り返りを行う。

(別表2) 令和8年度島根県子育て支援員専門研修(地域保育コース)

1 共通科目

(1) 受講者定数 140名

(2) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 地域保育の基礎を理解するための科目				
①乳幼児の生活と遊び	講義	60分	①子どもの発達と生活 ②子どもの遊びと環境 ③人との関係と保育のねらい・内容 ④子どもの一日の生活の流れと役割	①発達・成長過程に応じた子どもの生活への援助方法について理解する。 ②発達にふさわしい子どもの遊びとその環境のあり方について理解する。 ③子ども同士の関わりあいが、発達を促すことについて理解する。 ④子どもの一日の生活の流れの中での保育者(※)の役割について理解する。 ※【共通科目】において、保育者とは、家庭的保育補助者、保育従事者及び提供会員をいう。
②乳幼児の発達と心理	講義	90分	①発達とは ②発達時期の区分と特徴 ③ことばとコミュニケーション ④自分と他者 ⑤手のはたらきと探索 ⑥移動する力 ⑦ころと行動の発達を支える保育者の役割	①0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを学び、発達に応じた遊びやその安全性について理解する。 ②子どもの発達を支える保育者の役割について理解する。
③乳幼児の食事と栄養	講義	60分	①離乳の進め方に関する最近の動向 ②栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント ③食物アレルギー ④保育者が押さえる食育のポイント	①離乳の進め方に関する最近の動向について理解する。 ②幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識について理解する。 ③食物アレルギーについて理解する。 ④保育者がおさえる食育のポイントについて理解する。
④小児保健I	講義	60分	①乳幼児の健康観察のポイント ②発育と発達について ③衛生管理・消毒について ④薬の預かりについて	①保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について理解する。 ②現場に生かせる、より具体的な対応について理解する。

⑤小児保健Ⅱ	講義	60分	①子どもに多い症例とその対応 ②子どもに多い病気(SIDS等を含む)とその対応 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」を周知する。 ③事故予防と対応	①子どもに多い症状・病気を学び、その対応について理解する。 ②小児に多い事故を学び、その予防と対応について理解する。 ③異物除去法、心肺蘇生法を学び、緊急時の対応について理解する。
⑥心肺蘇生法	実技	120分	①心肺蘇生法、AED、異物除去法等 ※見学だけの科目にならないよう参加人数等の配慮が必要。	①乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。
2. 地域保育の実際を理解するための科目				
⑦地域保育の環境整備	講義	60分	①保育環境を整える前に ②保育に必要な環境とは ③環境のチェックポイント	①保育環境の整備に当たり、基本的な考え方と配慮事項について理解する。 ②保育を行うために作られた場所ではないところを保育の場として利用する上での工夫や配慮について理解する。 ③保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例およびチェックポイントを示し、自己点検を行えるようにする。
⑧安全の確保とリスクマネジメント	講義	60分	①子どもの事故 ②子どもの事故の予防 保育上の留意点 ③緊急時の連絡・対策・対応 ④リスクマネジメントと賠償責任	①保育環境上起こりうる危険について学び、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について理解する。 ②万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。
⑨保育者の職業倫理と配慮事項	講義・演習	90分	①保育者の職業倫理 ②保育者の自己管理 ③地域等との関係 ④保育所や様々な保育関係者との関係 ⑤行政との関係 ⑥地域型保育の保育者の役割の検討(演習)	①保育者としての職業倫理について理解する。 ②保育者の自己管理について理解する。 ③地域住民との関係づくりについて理解する。(家庭的保育における家庭的保育者の家族との関係にも留意する。) ④保育所や様々な保育関係者との関係づくり、行政との関係などについて理解する。 ⑤児童虐待が疑われた場合の保育者としての対応について理解する。

⑩特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児）	講義	90分	①気になる行動 ②気になる行動をする子どもの行動特徴 ③気になる行動への対応の考え方 ④気になる行動の原因とその対応 ⑤保育者の役割 ⑥遊びを通して、子どもの発達を促す方法	①0～2歳の気になる行動をどのように考え、どう関わっていけばよいかを行動特徴の把握などを通して理解する。 ②特別に配慮を要する子どもへの対応における保育者の役割について理解する。 ※ 発達の遅れが疑われる場合、保護者の思いを踏まえた上での対応の必要性について理解する。 （専門機関との連携を含む。） ③遊びを通して、子どもの発達を促す方法について理解する。
3. 研修を進める上で必要な科目				
⑪グループ討議	演習	90分	①討議の目的 ②討議の原則 ③討議の効果 ④討議のすすめ方 ⑤グループ討議（演習）	①研修参加者が討議のテーマにそって話し合うための方法やマナーについて理解する。 ②テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通して、考えをまとめ、問題点を整理し、解決方法を検討する。 ③今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。 ④研修で学んだこと等についてグループ討議を行い、理解を深める。
4. 自治体の制度や地域の保育事情等を理解するための科目				
⑫実施自治体の制度について（任意）	講義	60分～90分	①関係機関 ②地域資源	①実施自治体の保育関係施策や関係機関について理解する。 ※一時預かり事業を含めた地域子ども・子育て支援事業について理解する。

2 選択科目（地域型保育）

(1) 受講者定数 100名

(2) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
①地域型保育の概要	講義	60分	①地域型保育の事業概要 ②地域型保育の特徴 ③地域型保育のリスクを回避するための課題	①地域型保育の各事業の概要や位置づけについて理解する。 ②地域型保育の特徴を学び、保育所保育との共通点、相違点について理解する。 ③規模の小さい地域型保育の意義及びリスクについて学び、リスクを回避するための課題について理解する。
②地域型保育の保育内容	講義・演習	120分	①地域型保育における保育内容 ②地域型保育の1日の流れ ③異年齢保育 ④新しく子どもを受け入れる際の留意点 ⑤地域の社会資源の活用 ⑥保育の計画と記録 ⑦保育の体制	①地域型保育における基本的な1日の流れや保育内容について理解する。 ②少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などについて理解する。 ③新しく子どもを受け入れる際の留意点について理解する。 ④計画や記録の必要性を学び、子どもの育ちの見通しをもって保育することの重要性について理解する。
③地域型保育の運営	講義	60分	①設備及び運営の基準の遵守 ②情報提供 ③受託までの流れ ④地域型保育の運営上必要な記録と報告	①設備及び運営の基準の内容について理解する。 ②情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて理解する。
④地域型保育における保護者への対応	講義・演習	90分	①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③子育て支援における保護者への相談・助言の原則 ④保護者への対応 ～事例を通して考える～	①保護者と協力して子どもの発達を支えとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。 ②地域型保育における保護者への対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30分 ～ 60分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

3 選択科目（一時預かり事業）

（１）受講者定数 70名

（２）受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
①一時預かり事業の概要	講義	60分	①一時預かり事業とは ②一時預かり事業の意義 ③一時預かり事業の特徴 ④一時預かり事業従事者の基本姿勢	①一時預かり事業の子育て支援としての意義、継続的な保育との相違について理解する。 ②一時預かり事業の特徴を学び、従事者として、子どもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。
②一時預かり事業の保育内容	講義・演習	120分	①初めて会う子どもとの関係づくり ②一人ひとりの発達に応じた生活・遊びの援助 ③子どもが安心して過ごせる環境づくり	①初めて会う子どもとの信頼関係を形成する具体的な関わり方について理解する。 ②一時預かり事業は子どもの家庭生活の延長にあるため、一人ひとりの状態に対応し、子どもが安心して過ごせるようにすることについて理解する。 ③子どもの不安を安心に変える具体的な関わり方について理解する。
③一時預かり事業の運営	講義	60分	①一時預かり事業の業務の流れ ②情報提供、受付、登録 ③記録、保護者への報告 ④職場倫理・チームワーク、職員間の共通理解	①一時預かり事業の業務の流れについて理解する。 ②記録や保護者への報告の記載の仕方、保護者のプライバシーの遵守、職員間の連携の必要性について理解する。
④一時預かり事業における保護者への対応	講義・演習	90分	①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③子育て支援における保護者への相談・助言の原則 ④保護者への対応 ～事例を通して考える～	①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。 ②一時預かり事業における保護者への対応において、信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30分 ～ 60分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

⑥見学実習	実習	2日 以上	1日目 保育の1日の流れを見る 2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ ※認可保育所での保育に関する見学実習も可能とする。	①一時預かり事業の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。 ②保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。 ③（見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。
	講義 ・ 演習	実習と同程度の内容を担保（1日以上）	※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。	

※科目名⑤及び⑥については、実習と同程度の内容を担保する講義・演習を1日実施するものとする

4 選択科目（ファミリー・サポート・センター）

（１）受講者定数 20名

（２）受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
① ファミリー・サポート・センターの概要	講義	60分	①ファミリー・サポート・センターとは ②ファミリー・サポート・センターの意義 ③ファミリー・サポート・センターの特徴	①地域における相互援助活動としてのファミリー・サポート・センターの活動の内容や意義について理解する。
② ファミリー・サポート・センターの援助内容	講義・演習	120分	①ファミリー・サポート・センターの援助活動における基本姿勢 ②援助活動の流れ ③活動を行う上での配慮事項 ④発達に応じた保育内容・生活援助	①保育者（提供会員）として子どもや保護者（依頼会員）に対する心構え、配慮しなければならない点について理解する。 ②援助活動の流れについて理解する。 ③年齢や発達に応じた保育内容・生活援助をする際の方法や工夫、留意事項などについて理解する。
③ ファミリー・サポート・センターにおける保護者（依頼会員）への対応	講義・演習	90分	①保護者（依頼会員）との関わりと対応 ②保護者（依頼会員）への対応の基本 ③保護者（依頼会員）への対応～事例を通して考える～	①保護者（依頼会員）と保育者（提供会員）が協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者（依頼会員）の子育てを支援する役割の意義について理解する。 また、このために必要な知識と技術について理解する。 ②保護者（依頼会員）との対応において、保護者（依頼会員）との信頼関係づくりや保護者（依頼会員）への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。
④援助活動の実際	講義・演習	120分	①実際の活動について学ぶ活動経験者に援助活動の実際を聞く 活動に関する疑問・不安等についての質疑応答	①先輩保育者（提供会員）から直接話を聞き、講義で学んだ環境整備、援助内容、安全確保などについて理解する。 ②援助活動に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。

5 選択科目（乳児等通園支援事業）

（１）受講者定数 ５０名

（２）受講科目（予定）

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
① こども誰でも通園制度の概要	講義	60分	①こども誰でも通園制度とは ②こども誰でも通園制度の意義 ③事業を実施する上での留意事項 ④全てのこどもの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対する支援を強化するために	①こども誰でも通園制度の事業概要や制度上の位置づけを把握する。 ②こども誰でも通園制度が創設された背景を学び、こども誰でも通園制度の意義を理解する。 ③こども誰でも通園制度に従事する保育者としての、こどもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。
②こども誰でも通園制度の保育内容	講義・演習	120分	①こどもの理解に基づく援助 ②一人一人に応じた生活・遊びの援助 ③こどもが安心して過ごせる環境づくり ④こどもとの関係づくりと利用状況等を踏まえた配慮	①こどもの状態・状況等に応じた生活・遊びの援助について理解する。 ②こどもが安心して過ごすことができる環境づくり、職員との関係づくりのための具体的な関わり方、配慮や工夫について理解する。
③こども誰でも通園制度の運営	講義	60分	①こども誰でも通園制度の業務の流れ ②情報提供、事前面談 ③記録、保護者への報告 ④職場倫理、チームワーク・職員間の連携、共通理解	①こども誰でも通園制度の業務の流れについて理解する。 ②記録や保護者への報告の仕方、利用者のプライバシーの遵守（個人情報保護や守秘義務）、職員間の連携の必要性について理解する。
④こども誰でも通園制度における保護者への対応	講義・演習	90分	①保護者への基本的な対応 ②保護者とともにこどもの育ちを支えていくための関わり ③その他の留意事項 ④こども誰でも通園制度における保護者への対応（演習）～事例を通じて考える～	①子育て支援の基本を踏まえた保護者への関わり方を理解する。 ②こども誰でも通園制度の特性を踏まえた保護者への対応のポイントや留意点を理解する。
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30分～ 60分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

⑥見学実習	実習	2日 以上	<p>1日目 こども誰でも通園制度の 1日の流れを見る</p> <p>2日目 記録・計画、受付等の書 類や環境構成、保護者対 応の実際等について学ぶ</p> <p>※従事を予定している事業 を見学先とすることが望 ましいが、こども誰でも通 園制度を実施している事 業所がない地域において は、一時預かり事業所又は 認可保育所での低年齢児 保育による見学実習によ る代替も可能とする。</p>	<p>①こども誰でも通園制度の現場に 出向き、講義で学んだ環境整備 や保育内容、安全確保など、 実際に見学・観察を通して理解 する。</p> <p>②こどもとの関わりに際して、具 体的に参考になることについて 理解する機会とする。</p> <p>③（見学実習を講義・演習に代え る場合）こどものおむつ交換、 食事の介助など、こどもの生活 援助について演習を通して理解 する。ミルクやほ乳瓶などの実 物を知る。</p>
（ 講義 ・ 演習 ）		（ 実習と 同程度 の内容 を担保 （1日 以上） ）	（ ※可能な限り見学実習を実 施することが望ましいが、地 域の実情等に応じ、DVDの 視聴等と講義・演習などによ る実施も可能とする。 この場合、こどものおむつ交 換や食事の介助等を学び、ミ ルクやほ乳瓶等の実物を知 る機会を設けることが必要。 ）	

※科目名⑤及び⑥については、実習と同程度の内容を担保する講義・演習を1日実施するものとする

※国からの通知が発出後、通知の内容に基づき、適宜見直すものとする

(別表3) 令和8年度島根県子育て支援員専門研修(地域子育て支援コース)

1 地域子育て支援拠点事業

(1) 受講者定数 30名

(2) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
①地域子育て支援拠点事業の全体像の理解	講義	60分	①地域子育て支援拠点事業の制度上の位置付けと成り立ち ②地域子育て支援拠点に求められる機能 ③地域子育て支援拠点における支援者の役割	①関連制度、地域子育て支援拠点事業の経緯を理解する。 ②基本4事業の内容、予防型支援の必要性について理解する。 ③支援者の役割について理解する。
②利用者の理解	演習	60分	①利用者の理解を深める演習	①利用者の立場になって、支援のあり方について検討・理解する。
③地域子育て支援拠点の活動	講義	60分	①子どもの発達を意識した環境づくり ②子どもの発達を促す環境づくりの工夫 ③利用者のニーズに配慮した講習等(プログラム)	①発達の基本、子どもの遊び、他者との関わりについて理解する。 ②具体的な環境づくりについて理解する。 ③利用者のニーズに配慮した講習等(プログラム)の実際について理解する。
④講習等の企画づくり	演習	60分	①具体的な講習等やプログラムづくり	①利用者に共通するニーズから、講習等(プログラム)を企画・実施する意味と方法を理解し、実際の現場での支援のあり方を検討する。
⑤事例検討	演習	60分	①事例に基づく検討	①実際の事例を基に、具体的な対応方法について理解する。
⑥地域資源の連携づくりと促進	講義	60分	①多様な地域資源の理解、連携づくりの促進	①情報提供や支援体制の構築のために、地域資源や連携づくりの重要性について理解する。

(別表4) 令和8年度島根県子育て支援員専門研修(放課後児童コース)

(1) 受講者定数 80名

(2) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の理解				
①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容	講義	90分	①放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の目的 ②放課後児童健全育成事業の一般原則とその役割 ③放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準及び放課後児童クラブ運営指針の内容	①放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の目的を理解する。 ②放課後児童健全育成事業の一般原則とその役割を理解する。 ③放課後児童健全育成事業に関する法律、政省令及び通知等の内容を理解する。
②放課後児童クラブにおける権利擁護とその機能・役割等	講義	90分	①放課後児童クラブにおける子どもの権利に関する基礎知識 ②放課後児童クラブの社会的責任 ③利用者への虐待等の禁止と予防 ④放課後児童クラブにおける保護者との関わり方や学校、保育所・幼稚園等及び地域との連携	①放課後児童クラブにおける子どもの権利についての基礎を理解する。 ②放課後児童クラブにおける社会的責任の基本を理解する。 ③放課後児童クラブにおける保護者との関わり方や学校、保育所・幼稚園等及び地域との連携の必要性を理解する。
2. 子どもを理解するための基礎知識				
③子どもの発達理解と児童期(6歳～12歳)の生活と発達	講義	90分	①子どもの発達理解の基礎 ②発達面からみた児童期(6歳～12歳)の一般的特徴 ③子どもの遊びや生活と発達	①子どもの育成支援のために子どもの発達の基礎を理解する。 ②発達からみた児童期の一般的な特徴を理解する。 ③児童期の生活と遊びを理解するために必要な発達の基礎を理解する。
3. 放課後児童クラブにおける子どもの育成支援				
④子どもの生活と遊びの理解と支援	講義	90分	①放課後児童クラブにおける育成支援の基本 ②子どもの遊びと発達 ③子どもの遊びと仲間関係及び環境 ④子どもの遊びと大人の関わり	①放課後児童クラブに通う子どもについて理解する。 ②子どもの生活における遊びの大切さを理解する。 ③子どもの自主性、創造性を大切にする遊びへの関わり方を理解する。

4. 放課後児童クラブにおける安全・安心への対応				
⑤子どもの生活面における対応等	講義	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの健康管理及び情緒の安定 ②子どもの健康管理に関する保護者との連絡 ③衛生管理、食物アレルギーのある子ども等への対応 ④子どもの安全と安全対策及び緊急時対応の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの健康管理及び情緒の安定を確保することの必要性を理解する。 ②子どもの健康維持のための衛生管理について理解する。 ③食物アレルギー等への対応に関する必要な知識を理解する。 ④安全対策及び緊急時対応の必要性を理解する。
5. 放課後児童クラブに従事する者として求められる役割・機能				
⑥放課後児童クラブに従事する者の仕事内容と職場倫理	講義	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブの仕事内容 ②放課後児童クラブに従事する者の社会的責任と職場倫理 ③放課後児童クラブにおける職員集団 ④運営主体の人権の尊重と法令の遵守（個人情報保護等） 	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブの仕事内容を理解する。 ②放課後児童クラブにおける職員集団と職場倫理を理解する。 ③人権の尊重と法令の遵守の必要性を理解する。

(別表5) 令和8年度島根県子育て支援員専門研修(社会的養護コース)

(1) 受講者定数 25名

(2) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 社会的養護の理念				
①社会的養護の理解	講義	60分	①社会的養護とは ②子ども家庭福祉、社会的養護の理念 ③社会的養護体系について ④社会的養護の課題と将来像 ⑤社会的養護と自立支援	①社会的養護の概要について、その背景となる社会の課題とともに理解する。 ②社会的養護の基本理念を理解する。 ③社会的養護の体系を理解する。 ④社会的養護の課題と将来像を理解する。 ⑤社会的養護における子どもの自立支援について、アセスメントや自立支援計画の意義を含めて理解する。
②子ども等の権利擁護、対象者の尊厳の遵守、職業倫理	講義	60分	①子どもの最善の利益 ②子ども・保護者の意見表明、苦情解決の仕組み ③被措置児童等虐待の防止 ④養育者・支援者の資質、メンタルヘルス	①「児童の権利に関する条約」、国連「児童の代替的養護に関する指針」を踏まえ、そこに掲げられた子どもの最善の利益を尊重した支援の提供のため、「子どもの最善の利益」について理解する。 ②子ども・保護者の意見表明と苦情解決の仕組みを理解する。 ③被措置児童等虐待及び防止に向けた取組について理解する。 ④養育者・支援者の心身の健康が子ども等の心身の健康に結びついていることを理解する。
2. 対象者の理解				
③社会的養護を必要とする子どもの理解	講義・演習	90分	①発達段階ごとの理解 ②発達支援を必要とする子どもの理解 ③虐待(家庭における配偶者等からの暴力(DV)を含む)が子どもに及ぼす影響 ④保護者からの分離を体験した子どもの理解 ⑤支援者からの二次被害	①子どもの発達段階について理解する。 ②発達支援を必要とする子どもの特性を理解する。 ③虐待(家庭における配偶者等からの暴力(DV)を含む)が子ども・家族に及ぼす影響について理解する。 ④保護者からの分離を体験した子どもの特性や愛着障害について理解する。 ⑤支援者からの二次被害について理解する。

④家族との連携	講義	60分	①家族との連携の意義 ②支援を必要とする保護者との連携 ③家族再構築支援の実際	①子どもの自立の過程において必要不可欠な子どもと家族との関係の意義を理解する。 ②保護者の抱える困難（障がい・傷病、DV、貧困等）を理解する。 ③家族再構築支援の実際を学ぶ。
⑤地域との連携	講義	60分	①関係機関の理解 ②地域との連携の意義 ③より専門的な支援を必要とする場合の関係機関（医療機関等）との連携について	①子どもを支援する関係機関、保護者を支援する関係機関の名称や役割を理解する。 ②地域に開かれた養育のため、地域との連携の意義を理解する。 ③より専門的な支援を必要とする子どもに対する関係機関との連携について理解する。
3. 支援技術				
⑥社会的養護を必要とする子どもの遊びの理解と実際	講義・演習	90分	①「遊び」の意義 ②年齢に応じた遊びの内容 ③配慮すべきこと	①社会的養護を必要とする子どもの「遊び」の意義を理解し、乳幼児期から児童期までの遊びの実際を体験する。 ②年齢に応じた「遊び」について理解する。 ③「遊び」を支援する際の基本的原則と配慮すべきことを理解する。
⑦支援技術	演習	60分	①子どものニーズに応じたコミュニケーションスキル ②生活における支援 ③記録（日誌を含む）の書き方 ④個人情報の保護	①対人援助の基本である傾聴と共感・メッセージの伝え方等について理解する。 ②生活場面での関わり方（ほめ方、しかり方等）について理解する。 ③日誌を含む記録の書き方として、客観的事実と評価情報を区別することを理解する。 ④個人情報の保護と情報開示について理解する。
⑧緊急時の対応	講義	60分	①子どもの発達段階における事故防止 ②緊急時の連絡・対応について ③配慮を要する対応について ④現場で起こりうる危機場面について	①事故を未然に防ぐ予防策や緊急時の対応について理解する。 ②緊急時の連絡・対応について理解する。 ③配慮を要する対応について理解する。 ④子ども間の暴力等の危機場面の対応について理解する。

4. 演習				
⑨施設等演習	演習	120分	①社会的養護の現場の理解 (画像等) ②演習	①施設の概要を理解する。(画像視聴等) ②施設職員等とのグループワーク等により実際の業務について理解する。